

西教寺を訪う（広瀬淡窓）

亀王の 城壘 荻蘆の 秋

昨日の 英雄 何れの 処にか 求めん

長江に 向つて 往事を 談ずる 莫かれ

灘声 月色 愁いに 堪えず

龜王城壘荻蘆秋 昨日英雄何處求
莫向長江談往事 灘聲月色不堪愁

解説 西教寺は福岡市にある。元軍との激戦あつた古戦場を偲んだもの。

語釈 ※亀王：龜山上皇のこと。※城壘：博多湾に沿って築かせた石壘。※荻蘆：おぎとあし。ともに水際にはえる。※昨日：昔日の意。※英雄：元軍と戦い、これを退けた武者どものこと。※長江：長い川。長江といえは揚子江のことであるが、ここでは、福岡市東部を流れる御笠川をさす。※往事：昔のこと。文永・弘安の役をいう。※灘声：川の流れる音。

通釈 龜山上皇の御代に築かれた防壘も、今では崩れて荻や蘆がぼうぼうと生い茂っている。この様な有様の中からでは、昔ここで、武者どもが勇ましく戦つたことなど想像もできない。川を見ながら、昔の戦さのことを話すのはやめよう。往時と少しも変わらない川の流れと月の光とが、私の心にももの哀れを感じさせ、堪えられないほどだから。